

2012/11/30

強震応答実験室利用報告書

京都大学 防災研究所
社会防災研究部門 都市空間安全制御研究部門
山口 謙太郎

1. 実験名称

コンクリートブロックを用いた摩擦接合型制震機構の模型振動実験

2. 実験目的

既往の研究で開発された SRB-DUP 工法を用いて組積したブロック壁体を用い、鉄骨梁と壁体間のボルト接合部が制震機構として機能するか、計測してデータを採る。

3. 利用機関

2012年11月5日～2012年11月16日

4. 利用者

代表者	山口 謙太郎	九州大学人間環境研究院
実験参加者	川瀬 博	京都大学防災研究所
	松島 信一	京都大学防災研究所
	野村 杉夫	(有)野村重機
	長島 史明	京都大学防災研究所
	宝音 図 (ポイント)	京都大学防災研究所
	飛田 幸樹	京都大学・研究生
	仲野 健一	京都大学・研究生
	秋月 佑太	京都大学・研究生
	山本 梨絵	京都大学・研究生
	小阪 宏之	京都大学・学生
	永田 修平	京都大学・学生
	畠山 直己	京都大学・学生
	森 勇太	京都大学・学生

5. 実験概要

(1) 工程

試験体の設置は 11/5,6,7、11/13 の 4 日間、加振は 11/8,9,12,14,15 の 5 日間、試験体の

撤収作業は 11/16 である。

(2) 試験体の寸法

2.7m×1.6m×2.0m。下にその写真を載せる。

(3) 加振内容

X 方向に 20gal～1080gal まで、スイープ波と地震波を入力した。

6. 実験の結果

制震効果の期待できる応答は見られた。しかしスケジュールが過密であり、いくつかキャンセルした実験があったので採れたデータは予定より少ない。今後は得られたデータを検証して制震機構としての有用性を調べていく。



▲試験体写真

以上